

題字 故前田和二郎名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 吉野肇一

平成 27 年度
刀林会評議員会・総会報告

理事長 吉野 肇一 (44回)

副理事長 熊井 浩一郎 (46回)

副理事長 吉田 一成 (59回)

評議員会・総会は、会則
上、本会の意思決定機関と
して定められており(19
条)、また、総会議決事項
の会員への速やかな通知は
理事長の責務(18条)なの
で、ここに報告等いたしま
す。

評議員会・総会は、会則
上、本会の意思決定機関と
して定められており(19
条)、また、総会議決事項
の会員への速やかな通知は
理事長の責務(18条)なの
で、ここに報告等いたしま
す。

評議員会

15時より1時間

出席評議員44名(うち書
面出席14名、委任状宛先は
いづれも理事長、定足数
25)欠席の3名には次回の
出席をお願いします。

会則及び前例に倣い、互
選により議長を理事長とし
た。

報告・審議案件と結果は
次のとおり

1. 平成26年度刀林会年間
庶務報告(理事長)

会員数1202名(前
年比 +7名)

物故者14名:山本八
洲夫(20回)、荒川 亮
(26回)、守屋荒夫(27回)、
末舛恵一(28回)、井上
孟(29回)、飯村一猛
(30回)、増子 昭(31回)、
平井秀幸(33回)、大西
秀胤(34回)、石引久弥
(35回)、野澤達郎(40回)、
石 邦輔(43回相)、奥
井俊一(57回)

通常理事会4回、通常
評議員会1回、通常総会
1回の開催

2. 平成27年度教室年間報
告(吉田教室主任)

教室幹事

長谷川博俊(66、一)

専修医担当主任

林田 哲(77、一、総括)

岡本一真(78、心)、神
山育男(76相、呼)、秋
山武紀(77、脳)、星野
健(63、小)

研修医担当主任

八木 洋(77、一、総
括)、岡本一真(78、心)、
大塚 崇(75、呼)、堀
口 崇(69、脳)、藤野
明浩(75、小)

教室会議構成員

吉田一成(59、脳)、
黒田達夫(61、小)、淺
村尚生(62、呼)、北
川雄光(65、一)、志
水秀行(65、心)、大平
貴之(58、脳)、饗庭
了(61、心)、星野
健(61、小)、工藤樹

彦(64、心)、戸田正
博(66、脳)、長谷川博
俊(66、一)、佐々木
光(69、脳)、竹内裕
也(71、一)、板野
理(71、一)、尾原秀明
(72、一)、大塚 崇(75、
呼)、藤野明浩(75、小)、
吉武明弘(77、心) 林田
哲(77、一)、渡辺真
純(64、連携教室員)

人事異動および役職・
職名の変更(H26.4.2 ~
H27.4.1)

一般・消化器外科: 83
件
心臓血管外科: 14件
呼吸器外科: 15件
脳神経外科: 17件
小児外科: 6件
専修医1年目: 26名
学内役職者(H27.6.1
現在)

名譽教授 7名、元教
授 3名、教授 5名、
客員教授 37名、兼任教
授 1名、准教授 8名、
客員准教授 26名、専任
講師 14名、客員講師 31
名、非常勤講師 29名、
兼任講師 1名、助教 18
名、

3. 委員会報告と承認
○刀林新聞編集委員会
(秋山武紀委員、77)刀
林新聞103号、104
号の刊行、刀林会広報委
員会立ち上げについて報
告、承認
○刀林賞選考委員会(幕
内博康委員長代理、理事
長)
本年度、募集要項改訂
のため募集せずと報告
○刀林会基本問題検討委
員会(熊井浩一郎委員長
46、一)刀林会規定改定

について審議、承認、刀
林会財産管理に関する審
議経過報告

4. 平成27年新入室者26名
(教室主任)
92回生11名および同相
当15名の報告があった

5. 平成26年度決算報告(星
野 健会計係、63、小)
当期収入合計、同支出
合計、同差額の順に記す
(単位:万円、千円以下
四捨五入)

一般会計 497、4
94、3黒字(次期繰越
金2,016)
学会支援準備金0、
19、19赤字(同399)
刀林基金0、50(同1、
684)
拍手多数で承認、総会
へ上程予定

6. 平成27年度事業計画(熊
井副理事長)
(1) 『刀林』105号、
106号発行
(2) 通常会務・総会、
評議員会、理事会および
各種委員会の開催
(3) 学会支援募金
(4) 刀林賞選考
(5) ホームページ運営
(6) その他

8. 平成27年度予算(星野
健会計係)
広告収入減少見込みの
報告、総会参加人数増に
より総会補助費増の計上
を報告、承認

9. 平成27年度学術集会開
催支援募金
次の2件が承認された
(ア) 第32回日本小児外
科学会秋季シンポジウム
(H28.10.27 ~ 29@大宮)

10. 刀林会新入会
各診療部長より一般・
消化器外科3名、心臓血
管外科12名、呼吸器外科
2名の新入会希望者の紹
介があり、承認された

会長 中野美和子(さ
いたま市立病院、54相、
小)総予算1500万円
のうち150万の支援依
頼
(イ) 第29回日本内視鏡
外科学会総会(H28.12.8
~ 10@横浜)

会長 渡邊昌彦(北里
大学、58、一)総予算1
億9千万のうち1000
万円の支援依頼

○学術集会開催支援募金
第32回日本小児外科学
会秋季シンポジウム 中
野美和子会長より支援要
望挨拶
第29回日本内視鏡外科
学会総会の渡邊昌彦会長
より支援要望挨拶
両学会とも評議員会に
引き続き総会で承認され
支援が決定した

○刀林会新入会者
市原明子(練馬総合病
院、推薦者北川教授)、
次田 正(公立福生病院、
推薦者長谷川准教授)、
大迫茂登彦(東京医療セ
ンター)、大坪 諭(済
生会中央病院)、飯田泰
功(済生会横浜市東部
病院)、内室智也(東京
医療センター)、岡本雅
彦(済生会横浜市南部病
院)、澤 重治(荻窪病
院)、寺田正次(小児総
合医療センター)、配島
功成(埼玉病院)、林

総会
16時半より1時間
秋山武紀同窓会係(77、
脳)司会。
会則により理事長が議長
を務めた。
出席 159名(前年比
+13名)、うち専修医(85
回、85回相当まで) 44名、
新入会者15名

○前述の評議員会と重複
する刀林会および教室年間
報告は省略)
○平成26年度決算・監査報
告が、星野 健会計係
(63、小)と安藤暢敏監
事(50、一)により行わ
れ、拍手多数により、承
認された。

○平成26年度事業計画およ
び、予算案が熊井副理事
長および星野会計係より
上程され、拍手多数で原
案どおり承認された。
○会則改定案が、熊井副理

事長より上程され、拍手
多数により承認された

○刀林会新入会者
市原明子(練馬総合病
院、推薦者北川教授)、
次田 正(公立福生病院、
推薦者長谷川准教授)、
大迫茂登彦(東京医療セ
ンター)、大坪 諭(済
生会中央病院)、飯田泰
功(済生会横浜市東部
病院)、内室智也(東京
医療センター)、岡本雅
彦(済生会横浜市南部病
院)、澤 重治(荻窪病
院)、寺田正次(小児総
合医療センター)、配島
功成(埼玉病院)、林

総会の最後として講演会
が理事長司会のもとで、「イ
グノーベル賞を受賞して」
という演題で新見正則君
(64、一)、「末舛恵一 元刀
林会理事長を偲んで」とい
う演題で浅村尚生君(62、
呼)が講演

○平成27年度外科学教室新
入室者
92回生11名、同相当15
名が林田 哲専修医担当
主任(77、一)より紹介
され壇上にて挨拶

○全員集合写真撮影



このあと、別室にて懇親会が開催された(本紙、別記)。

注・既述の総会報告に關し、総会終了直後に一理事より、次の指摘がありました。

「会則改定には、会員総会において会員総数の2/3以上(委任状を含む)の議決が必要・旧会則27条」  
そこで監事と相談した結果、次のような理由により、会則改定を既定方針どおりに行いたいと考え、理事会・評議員会に諮り、承認されました。

1. 会則どおりに改定しようとする、来年の定期総会を待つか、臨時総会を開催しなければならぬ。開催しても、これまでの委任状を入れた出席者数が辛うじて過半数に達する状況では、とても2/3条項をクリアすることはできない。

2. 今回の会則改定は、基本問題検討委員会での度重なる検討、さらにはパブリックコメントの収集、そして、総会での満場一致での賛成と、数々のプロセスと、多大な労力・費用を掛けてここまで来まものである。本会は、法人でない単なる親睦団体に過ぎないので、前記のプロセス等を繰り返すまでのことはないと考えられた。

3. 前回改定時(H24.6.16)、この会員総数2/3条項は見落とされてきた。現在、すでに改定された会則に則って運営されてきたので、これを戻すことは事実上不可能に近い。

4. 直近の総会決議である新会則の次の条項を、より、尊重したいと考えた。

【評議員】  
第7条 評議員は、評議員会を組織し、本会の運営に關する案件を審議し、議決する。ただし、会則変更に關しては総会の承認を得なければならぬ。

【会 議】  
第17条 本会は、通常総会、臨時総会、評議員会及び理事会を開催する。

2 各会議は、その構成員の過半数の出席(委任状を含む)を以てて成立する。

3 上程された案件の承認ないし議決は、出席者の過半数を以てて決する。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

第19条 通常総会においては、次の事項を審議及び報告する。

1. 審議事項 (1) 本会会則の変更、(2) その他必要な事項

2. 報告事項 (1) 本会会計に關する件、(2) 本会事業に關する件 (5) その他必要な事項

【会則変更】  
第34条 本会則の変更は、評議員会において評議員総数の3分の2以上(委任状を含む)の議決及び総会の承認を得るものとする。

なお、この審議過程で、一理事より、あくまでも原則に則って処理すべきであるという意見が出されたことを付記します。

以上



▲刀林会 平成 15 年 6 月 20 日 於 ホテルオークラ東京

# 同窓会総会報告



慶應義塾大学医学部  
外科(脳神経)

秋山 武紀(77回)

刀林会総会に引き続き、本年もホテル・オークラのアスコットホールIIに場所を移動し、刀林会会員懇親会が盛大に行われました。本年は懇親会に先立ちまして同ホールにて参加会員全員の集合写真を撮影いたしました。刀林新聞にてその壮観な様子をお届けできるのではと思います。

開宴の準備が整いましてから、吉野理事長より総会が無事終了した旨の報告があり、その挨拶にて懇親会が開始されました。引き続き、前田昭二君(33回)よりご挨拶の後、乾杯の御発声をいただきました。

この後は立食形式で会員の先生方にホテルオークラの食事を楽しんでいただきながら、ご歓談の時間となりました。途中、古川俊治君(66回)からの祝電も紹介されました。和やかな雰囲気の中、新入室者から外科学教室の歴史を作られた先生まで入り交じり、親交を深めておられました。

会の後半では、恒例のじゃんけん大会が行われました。吉野理事長との間で

じゃんけんを行い、勝ち残った先生には各種プレゼントが渡されました。最後に今井俊一君(89回)のエイールにより「若き血」を全員で斉唱、吉田一成教室主任よりご挨拶をいただき、閉会となりました。

本年は外科学教室新入室者に加え、多くの刀林会新入会の先生方が参加され、例年に増して賑やかな懇親会になったのではないかと思います。



# 教室主任を終えて



慶應義塾大学医学部  
外科（脳神経）教授

吉田 一成 (59回)

2015年9月までの2年間、外科学教室主任を務めさせていただきました。この立場から、これまでもわかっていたはずなのに、改めて実感できたこと、外科学教室の抱えるいくつかの問題点も認識できました。外科学教室は、5診療科から構成されていますが、5診療科の立ち位置は、同等ではありません。専門医制度の観点からも、脳神経外科を除く4診療科は、外科学会の専門医制度を基本とした、subspecialtyの専門医制度を有しており、す。一般・消化器外科は、新専門医制度でいう、基本

的診療科部分と、消化器外科などの、2階建て部分のsubspecialtyとしての分を担っており、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科は、2階建ての部分のみを担っております。一方で、私も脳神経外科の専門医制度は、外科学会と同等立ち位置にあり、外科学会との接点はあります。このような状況の中で、外科学教室としましては、外科学会の基本的診療科部門、5診療科の連携が、大きな役割を担っております。私が就任してからも、教室秘書が短期間で退職し、採用した後任の方が、数日で辞め



てしまうという状況になり、緊急避難的に、私の秘書が教室秘書を兼任することになりました。このことにより、私とりまして、外科学教室の実情を知り、ある大教室制度のもと、95の方を考える機会になりました。私の在任中に、日本専門医機構による上述のよこと誠に光栄に存じております。また、2017年4月より日本専門医機構による新専門医制度がスタート致します。現在、日本外科学会副理事長、専門医制度委員、長として、外科専門医制度の運営に携わり、さらに今般発足した日本専門医機構理事として新制度構築に関与してまいりました立場から、新たに発足する慶應外科プログラムの統括責任者としてよりよいプログラムを構築して参りたいと思っております。教室主任として最終的に引き継いでいただくことになりましたが、大過なく職務を終えることができ、同門の皆様には感謝したしております。

# 教室主任就任にあたって

## 新専門医制度発足、外科学教室100周年に向けて



慶應義塾大学医学部  
外科（一般・消化器）教授  
外科学教室主任

北川 雄光 (65回)

この度、平成27年10月1日付けにて吉田一成教授（59回）の後任として外科学教室主任を担当させて頂くことになりました。伝統ある大教室制度のもと、95年の歴史を誇る本学外科学教室主任を拜命致しましたこと誠に光栄に存じております。

さて、2017年4月より日本専門医機構による新専門医制度がスタート致します。現在、日本外科学会副理事長、専門医制度委員、長として、外科専門医制度の運営に携わり、さらに今般発足した日本専門医機構理事として新制度構築に関与してまいりました立場から、新たに発足する慶應外科プログラムの統括責任者としてよりよいプログラムを構築して参りたいと思っております。教室主任として最終的に引き継いでいただくことになりましたが、大過なく職務を終えることができ、同門の皆様には感謝したしております。

始致しました。慶應外科プログラムは、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、消化器外科の4つのサブスペシアルティ領域と連動した基本領域プログラムであり、国際的な発信力を有するAcademic surgeonとして、あるいは第一線の基幹病院における指導者として活躍できる外科医を育成することを目的としております。この目的を小児外科・黒田達夫教授（61回）、呼吸器外科・浅村尚生教授（62回）、心臓血管外科・志水秀行教授（65回）とともに共有し、強固に連携して参りたいと思っております。慶應外科伝統の大教室制度はまさに新専門医制度のもとで、その機能が十分に発揮できるものと自負しております。新専門医制度発足に合わせて全国の各大学が、講座ごとに診療領域の重複したいわゆるナンバー講座制度を臓器別講座制に再編成し、さらにこれらを大講

座制に移行させている状況を見るにつけ、創設時から大講座制を構築してこられた先達の皆様の先見性にあたためまして深く感謝致しております次第です。

一方、新専門医制度発足に際して、脳神経外科は外科と並ぶ基本領域に分類され、制度上独立した教室として運営しなければならぬ状況が生じて参りました。外科学教室5教授を中心に慎重な協議を重ねて参りました結果、脳神経外科が教室として発展的に独立し、新専門医制度に合わせ教室運営をそれぞれが行っていくことが将来に向けて望ましいであろうとの結論に達しました。この旨を、脳神経外科 吉田一成教授と私の連名で医学部教授会上申し、平成27年10月19日の教授会にて脳神経外科学教室の新設が承認されました。永年「同じ釜の飯を食い」苦楽をともにしてきた仲間ですので、寂し

さ否めませんが、脳神経外科学教室の発展的独立を心よりお祝いし、精一杯応援して参りたいと存じます。当面、学生教育や教室としてのインフラを共有し、お互いに今まで以上に助け合って参ります。また、刀林会としては引き続き脳神経外科の先生方とともにその歴史を積み重ねて参りたいと存じております。

2017年には医学部創設100年、2020年には外科学教室100年という大きな節目を迎えることとなります。教室主任としてのもう一つの大きな任務は外科学教室100年記念事業を開始することと考えております。北島政樹教授（45回、名誉教授）のもと第100回日本外科学会学術集会を当教室が主催し、同時に外科学教室80周年記念事業を行った15年前のことが昨日の出来事のように

思い出されます。私は熊井浩一郎先生（46回、刀林会副理事長）のもと記念誌編纂事業に携わらせて頂きました。当時の経験からもその準備には多くの方々の協力と一定の時間を要するものと認識しております。今回は記念すべき100周年ということもあり、シンポジウム、記念式典、シンポジウム、記念誌編纂、記念事業募金活動などに関わる委員会を立ち上げることとなりました。もちろんこの事業には脳神経外科の先生方にも刀林会の一員としてご参画いただきたいと存じております。

昨今の社会情勢、とくに外科医療を取り巻く様々な環境の変化から大学における外科学教室の在り方は大きな過渡期にさしかかっております。他大学で起こった高難度新規医療技術や臨床研究に関する不祥事は、外科学を志す若者の意欲、大学での研究活動そのものへの逆風となつております。一方、このような状況であるからこそ、外科学の学問としての重要性を社会に向けて発信すること、本学外科学教室に科せられた重大な責務であると認識しております。新専門医制度発足、外科学教室100年という大きな変革と節目の到来を、むしろ大きなチャンスと捉えて、現教室員一同全力で取り組んで参りますので、刀林会会員の皆様におかれましては、ご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



# 新病院棟建設募金へ

## さらなるのご協力をお願い



慶應義塾大学医学部  
外科（一般・消化器）教授  
外科学教室主任  
北川 雄光（65回）

2017年に、「医学部創設100周年」を迎えるにあたり、われわれが次世代に託す次の100年に向けた最大の事業であります。新病院棟建設も無事1期工事が竣工し、慶應義塾全体からの期待も高まっております。一方、平成27年9月末までに完了したわれわれ三四会員からの募金は総額で10億0330万円（図1）と、目標30億円の約三分の一にとどまっております。こうした状況を鑑み、刀林会としても新病院棟建設募金に積極的に協力していくことが理事会で決議されました。今年7月吉野肇一理事長、熊井浩一郎副理事長のご下命で、私が刀林会新病院棟建設募金委員会委員長を務めさせていただきました。早速、外科学教室内に「刀林会新病院棟募金委員会」を設置し（表1）、三四会新病院棟募金委員会との情報交換や対策の協議を行っております。慶應義塾基金室によりますと、刀林会からは

すでに総額1億5063万円の募金を頂いております。教室別募金率（図2）（募金者/在籍者数）は、10%

強と他教室とほぼ同等で、各教室とも同窓の皆様へのさらなるお願いが必要な状況です。また、外科学内の

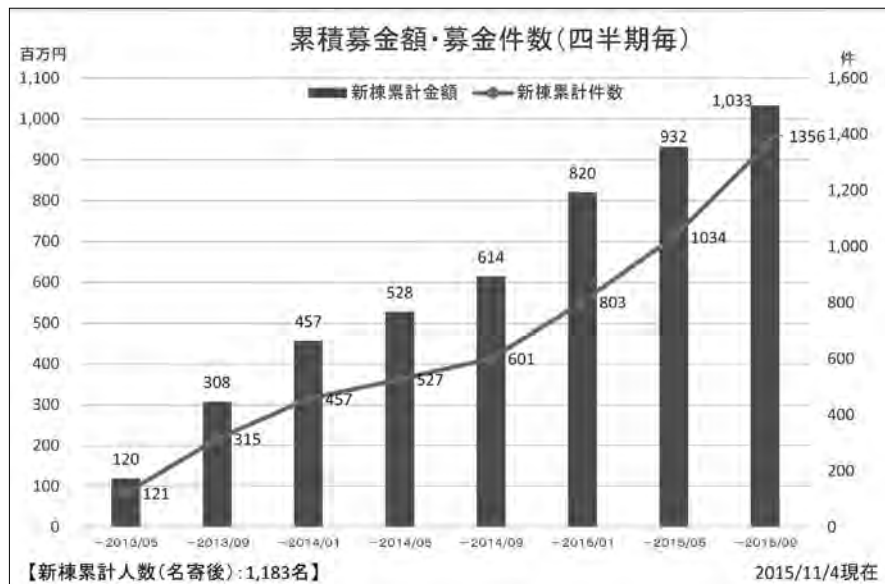
募金額や募金率（図3）は卒業年次によって大きくばらつきがございます。ご同級の皆様とのネットワークで活動して頂くことの重要性も感じております。累積募金率（図4）は徐々に上昇しておりますが、今後さらなるご支援をお願い致します。個人別の募金状況を参考資料として各診療科教授から診療科ごとに刀林会会員の皆様へ個別にお願いすることも計画しております。その節は何卒よろしくお願致します。

- 【募金の仕方について】**
1. 分割払いが可能です。
  2. クレジット払いが可能です。
  3. 慶應義塾教職員の方は、給与天引きが可能です。
  4. 税法上の優遇措置：法人の場合は、全額損金算入が可能です。（日本私立学校振興・共済事業団を通じて慶應義塾へ寄付）

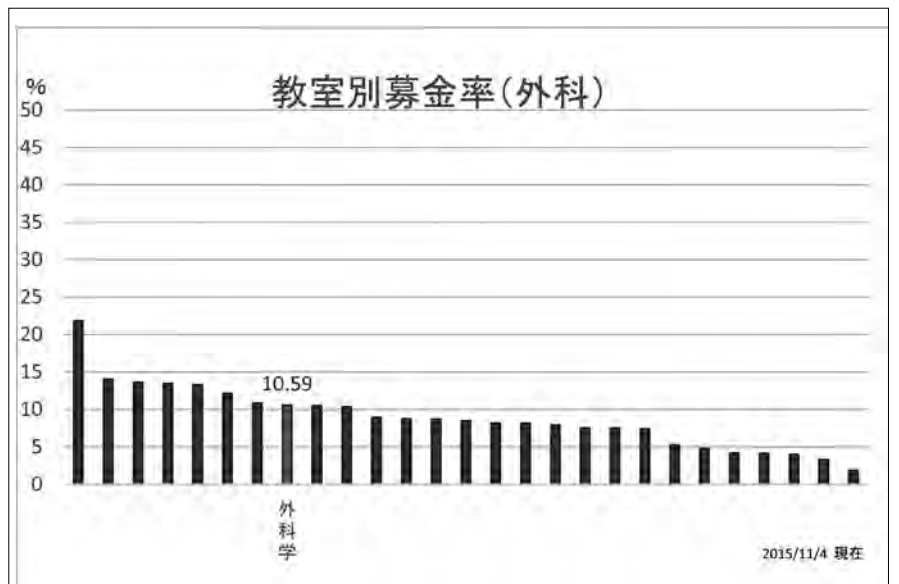
**【お問い合わせ窓口】**  
 慶應義塾基金室（黒田様）  
 TEL：03-5427-1898 / FAX：03-5427-1546  
 E-mail：kikin-box@adst.keio.ac.jp

所属	教授	募金委員	
		大学外	大学内
脳神経	吉田 一成	佐藤周三	佐々木光
一般消化器	北川雄光	磯部 陽	尾原秀明
			篠田昌宏
心臓血管	志水秀行	伊藤 努	吉武明弘
呼吸器	浅村尚生	澤藤 誠	神山育男
小児	黒田 達夫	上野 滋	下島直樹

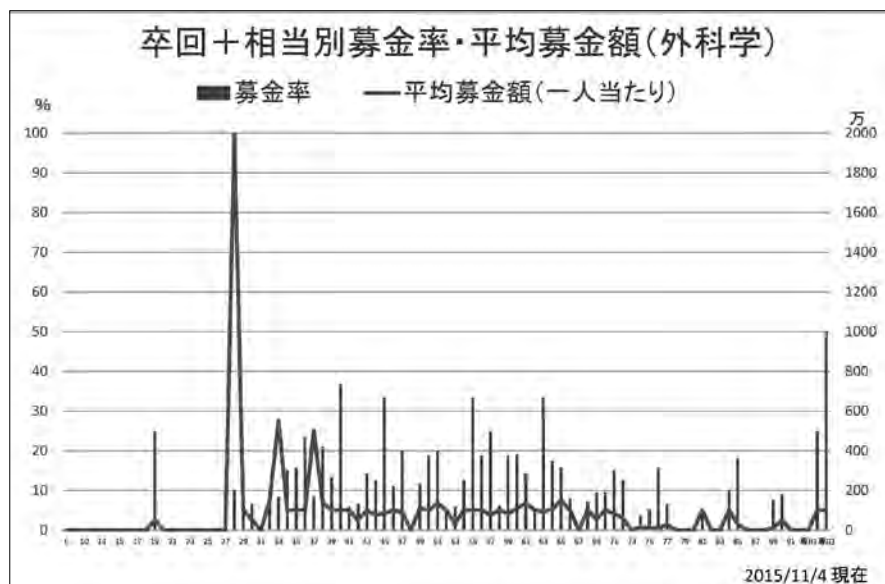
▲表 1 刀林会新病院棟募金委員



▲図 1 累積募金額・募金件数 (四半期毎)



▲図 2 教室別募金率 (外科学)



▲図 3 卒回+相当別募金率・平均募金額(外科学)



▲図 4 累積募金率推移 (四半期毎) (外科学)



# 教室幹事を拝命して



慶應義塾大学医学部  
外科（一般・消化器）  
竹内 裕也（71回）

本年10月1日より前任の長谷川博俊准教授より引き継ぎ、慶應義塾大学外科学教室幹事を拝命いたしました。一般・消化器外科 71回生 竹内裕也でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は1992年に塾医学部を卒業後、外科学教室に入室いたしました。一般・消化器外科の研修、関連病院出向や留学を経て、北島



政樹名誉教授、北川雄光教授のご高配で2006年に大学に帰室し、これまで主に上部消化管疾患の外科診療、研究、教育に従事する機会を頂きました。早いもので帰室から10年となりましたが、好きなことを自由にやらせていただいた間に年齢だけ重ねてしまい、これまで教室運営には何ら貢献することもありませんでした。今回このような大役を

頂いたことは本当に身に余る光栄ではありますが、同時に非常な重圧も感じているところでございます。とくにまだまだ駆け出しながら教室幹事の膨大な業務内容を知るにつけ、歴代教室幹事の先生方のご苦労、ご尽力が容易に思い起こされ、改めてその責任の重さ（と自分の能力不足）を痛感しております。

新外科専門医制度の発足に伴い、外科を志す若手医師を全国から集め、大きく育てていくためには、大学と関連施設、さらに刀林会の皆様方より一層の緊密な連携が欠かせません。また外科学教室の伝統である大教室制の利点を生かし、診療科間連携、関連施設間の連携をさらに深めていくようお役に立てればと考えております。微力ではございますが文字通り粉砕砕身の決意で精進いたしますので、皆様方にはより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# 成田富里徳洲会病院 院長就任



白部 多可史（60回）

最初に伝統ある【刀林】に記事掲載して頂ける機会を与えて頂きました吉野理事長と小澤編集委員長に深く御礼を申し上げます。私は平成25年の4月に長年お世話になった関連病院を離れ、徳洲会に身を投じました。2年余りを千葉徳洲会の消化器外科部長として勤務し本年9月に新たに開院した成田富里徳洲会病

院の院長に就任致しました。当病院は地上11階・地下1階の760床を想定した徳洲会最大級の建物ですが、許可病床は285床で9月の開院時は3病棟150床でオープンしています。建物の大きさと比較すると非常に小さな病院として発足しています。

診療圏人口が20万人に過ぎないこともあり、建設を主導した本部自体が前途に悲観的で、支援も不十分で孤立無援のスタートでした。しかし、開院2カ月の新規患者数が4000人を突破し受け入れ救急車台数は628台と予想を覆す好スタートを切る事が出来、本部も遅まきながら力を入れる気になったようです。好発進は京成成田駅前という立地条件の良さと、

2次救急を担当する医療機関が非常に少なく、3次救急医療機関に負担が集中していた成田地区の救急医療体制の欠陥がもたらしたと考えられています。つまり、地域の医療ニーズが引き起こしたスタートダッシュであって、当院の医療技術・診療態度が評価された結果ではない訳です。これから、今後の発展は、われわれが地域のニーズを満足させられるかどうかにかかっていると私は思います。現在は一部の医師の超人的な働きで、かろうじて期待に応えてはいますが、今後の発展には優秀なスタッフの確保が急務です。そのためにも、慶應の支援が不可欠であると感じております。

幸い、開院直後に慶應関連病院会への加入を認めて頂き、外科教室からも非常勤医を派遣して頂きました。当教室以外でも整形外科から非常勤医の派遣を頂いており来年4月からの支援を前向きに検討して頂いている教室もあります。成田地区には大先輩である北島前教授率いる国際医療福祉大学の医学部新設が決定したと伺っており、この地域は成田日赤の独壇場から医療激戦区に変貌していくと思われまふ。今後はスタッフ・設備の充実に尽力し地域の2次救急/急性期中核病院として住民に信頼される病院を創り、国際医療福祉大学とともに成田地域を慶應外科の牙城にすることが出来ればと思っております。当院の今後の発展に教室の御支援を切に願います。

# 公立福生病院 院長退任



諸角 強英（53回）

平成27年3月をもって公立福生病院の院長を退任いたしました。

私が昭和59年の春に福生病院に就任した時から当院は慶應外科の出張病院となりました。当初外科入院患者は20人ほどで、週2日の手術日に手術がない日もあるという病院でしたが、救急患者や紹介患者などを大切に

を増やすよう努力しました。また、消化器内科医がいなかったこともあり、院内のすべての内視鏡やエコーを私一人で行って症例を集め、現在では年間手術数約750件、内視鏡数約6000件を行っております。

当院はもともと国保の病院でしたが、平成13年4月に福生市・羽村市・瑞穂町

による公立病院に移管し、私は平成15年4月に院長に就任しました。当時は医師不足が問題となり始めた時期に当たり、当院では内科と産婦人科で大学からの医師引き上げが行われ、産婦人科医0、内科医1人という危機的な状況に陥ったことがありました。公立病院での分婉や透析の休止という事態となり、患者・家族

への説明会やマスコミへの対応などに苦労しました。分婉は現地採用の医師により1年半の休止の後再開しましたが、いまだに安心できる状態にはなっておりません。透析は9年間の休止の後やはり現地採用の医師により腎臓病総合医療センターを開設し、急性期に特化した体制で再開していただきました。

当院の建物は築40年以上の古いものでしたが、公立病院に移管することにより建て替えが可能となり、平成20年新病院に移ることができました。古い病院から一気に最新の設備が整えられたフィルムレス・ペーパーレスという新病院に変わるとは思いませんでしたが、今後は名誉院長として公立福生病院の発展に協力していきたいと思っております。

優秀な人材を送っていただき、充実した医療を行うことができました。院長としては医師不足の対応に追われることが多く、満足できる体制にまでもっていきたくはできませんでしたが、今後は名誉院長として公立福生病院の発展に協力していきたいと思っております。

大きなトラブルなくスタートできました。この頃から当院へ勤務を希望する医師も増加し、古い病院時代の倍以上の医師数となりましたが、大学からの派遣はほとんど増加せず、現在、慶應大学から出向している医師数は全体の1/4ほどです。

外科医としては慶應から優秀な人材を送っていただき、充実した医療を行うことができました。院長としては医師不足の対応に追われることが多く、満足できる体制にまでもっていきたくはできませんでしたが、今後は名誉院長として公立福生病院の発展に協力していきたいと思っております。

# 東海大学医学部 外科学系心臓血管外科学

## 教授就任



長 泰則 (69回)

平成27年4月1日付けで東海大学医学部外科学系心臓血管外科学教授を拝命いたしました。これまで刀林会の諸先生方より格別のご指導とご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。特に学生時代からご指導いただいています志水秀行先生には、教授就任に当たり多大なるお力添えを頂いた事を深く感謝申し上げます。

東海大学医学部付属病院(神奈川県伊勢原市)は平成18年1月に、より高度な治療を可能とする設備を整えて新棟をリニューアルオープンしました。平成19年4月より、上田敏彦先生が教授として着任して以



来、体制を一新し、心臓疾患・大血管疾患に対する外科治療を充実させて来ました。世界標準の心臓血管外科治療を第一の目標に掲げ、狭心症に代表される虚血性心疾患・心臓弁膜症・不整脈等の後天性心疾患、大動脈瘤・大動脈解離を中心とする大動脈疾患、先天性心疾患、閉塞性動脈硬化症を含む四肢・内臓の動脈疾患を対象とした外科治療を幅広く行っています。また、疾患の特異性から一刻を争う緊急性の高い患者さんの治療も担っており、東海大学付属病院が地域救急医療に貢献する使命を果たすという大方針を掲げていることもあって、少数精鋭のスタッフは、文字通り昼夜を問わず粉骨砕身、診療にあたっています。

平成26年の手術件数は約500件で、人工心肺使用開心術もついに200例を超えました。当院は代表的な疾患に対する手術がほぼ均等に行われているのが特徴だと思います。特に高度救急医療を積極的に行っている施設でもあり、大動脈や末梢血管の手術例のうち30%以上が緊急手術です。また保存療法を行った患者さんを含め年間60例以上の急性大動脈解離症例を治療していますが、その多くが西湘地域の病院から救急車で転院搬送された患者さんです。来年度はハイブリット手術室が稼働し、地域医療にさらなる貢献を果たせるものと考えています。

私は平成2年に慶應義塾大学卒業と同時に外科学教室に入局、平成5年から心臓血管外科医を志すようになりました。これまで、多くの刀林会の諸先生方に決してあきらめないアグレッシブな手術、臨床の現場を

教えて頂きました。チーフレジデント修了後の平成10年からは平塚市民病院を中心に勤務、少しでも多くの手術を経験し、手術成績の向上を目指し研鑽して参りました。その縁もあり、平成21年10月からは東海大学医学部付属病院で勤務するようになり、東海大学異動にあつたては四津良平先生に大変なお力添えを頂いた上に、叱咤激励し私を送りだして下さいました。

東海大学着任後は主に冠動脈バイパス術といった虚血性心疾患に対する手術を担当しています。中でも重症虚血性心筋症に対する左室形成術、僧帽弁形成術を数多く行ってきました。左室形成術は心筋梗塞後に機能しなくなり(無収縮)逆循環動態に悪影響を及ぼすような左心室の大きな心筋梗塞後痕痕組織、いわゆる虚血性心筋症に対して行われています。私は幸いにも川田志明先生のご高配により平成12年にCentre Cardiothoracique de Monaco(モナコ呼吸器循環器センター)に留学、左室形成術をこの世に知らしめたDoc教授より直接ご指導いただく機会を得ました。現在、東海大学付属病院でもDor手術に準じた左室形成術を行い良好な長期遠隔成績が得られ、当院は日本でも有数の患者さんの手術を行う施設の一つです。

重症心筋症に対して確立された治療法は心臓移植しかありません。日本ではドナー不足の中、平成22年に移植法が改正され、希少ではあります。心臓移植は増えつつあります。またアメリカを中心とする大規模研究(STICH)は「虚血性心筋症の基本術式である冠動脈バイパス術に左室形成術を追加するメリットはない」という非常に残念な結果となりました。この研究は患者の選択、評価方法、手術の質という点で様々な問題点が浮き彫りとされましたが、この結果が世界での植え込み型人工心臓の普及の追い風となったことに間違いはないでしょう。移植への橋渡し(ブリッジ)として用いられてきた植え込み型人工心臓が日本でも急速に普及しつつあります。今や欧米ではデステイネーションセラピーとして年齢制限なく植え込み型人工心臓を移植し天寿を全うするという治療法も受け入れられつつあります。しかしながら、左室形成術が必要であり左室形成により大きなメリットが得られる患者さんは確実に存在します。現在、我々は重症心筋症の患者さんに対する冠動脈バイパス術、左室形成術、僧帽弁手術、という非移植手術から植え込み型人工心臓まで、さまざまな手術を行い、いかに患者さんにとってよりよい治療を選択していくか検証しています。

# 国際医療福祉大学

## 熱海病院教授退任



原田 俊一 (61回)

このたび、刀林編集委員の佐藤周三先生から、寄稿の依頼を受け、私ごときの拙文で紙面を汚すのもいかながなものとためらわれましたが、これも一つのけじめと思ひ直し、投稿させていただきます。(退任の)遠因となった事件は、平成26年2月の肌寒い日に起こりました。イカ釣りが趣味の私は、荒天を突いて、真鶴港からやりいかをねらつて誠一丸に乗り込み、釣り場である南沖に到着しました。何回目かの「流し」を変えらる途中、電動リール付きSHIMANOやりいか仕様の釣竿が、自分の手を離れ、「あつ!」という間もなく太平洋へ吸い込まれていってしまった。船頭からは「なにやってんだよ!」と罵声を浴びせられたものの回収するすべもなく、ただうなだれるしかありませんでした。いうなら、外科医が手術中メスをおなかの中に落つことすようなものどきか・・・その後何事もなかったかのように日々

の生活を送っておりまして、このことは心のどこかに引っかかっておりました。5月頃、懇意にしている後輩の診療所で人事の抜けがあり、困窮しているとの報を受け、きつぱりとメスを置き、転身することに決めました。熱海病院では脳卒中・神経センターの立ち上げ、運営、初期研修医指導責任者、脳死下臓器移植(ドナー)チームの立ち上げ、小田原看護学校講義、熱海・伊東地区メデイカルコントロールなど、寺岡慧前々院長(現専務理事・東大卒)の指導の下、脳神経外科診療以外にも、いろいろ楽しく仕事をさせていだき、感謝の念でいっぱいでした。また、ここに誘っていたいた北島政樹学長や高木理事長にも慰留されましたが、思うところあつて勝手に退任いたしました。6年間という短い間でしたが充実した日々を送らせていただきました。改めて、国際医療福祉大学グループの諸先輩・諸兄には心より御礼申し上げます。

私が現在奉職する「飯能市東吾野医療介護センター」は、埼玉県西部高麗川沿いにあり、老健併設型有床診療所(19床)で旧飯能市立病院ということもあって公的色合いが強く、国の進める医療介護総合確保推進法にのっとりた運営がやりやすい環境にあります。すなわち、2025年に向けて在宅医療への誘導・実施、訪問診療・往診の充実、介護予防通所介護などなどのモデルケースとなるべく日々精進しておる次第です。発病診療所の10数倍の規模で、診療内容は多岐にわたり、健診、検死などもあつて忙しい毎日です。人生に起承転結があるならば今回は「転」と心得、刀林諸兄からうけた薫陶に込めるべく、地域住民の健康・生活の維持向上に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



# 病院紹介

## 佐野厚生総合病院



奥澤 星二郎 (57回)

佐野市は栃木県南部にある人口12万5千人の街で、東京から15時間程でアクセスできます。私は在住15年目になりますが、都会と田舎が程よくミックスされた

穏やかな住環境は魅力的です。自宅の菜園から朝採りした新鮮な野菜の味は格別です。

当院は市の中心部にあり、13年前、41,000㎡の広い敷地に新棟移転した8階建て、531床(22診療科)の総合病院です。

周辺に病院が少ないという地域特性から、一般380床(7対1)、療養1000床、精神51床の病床機能を有し、昨年、新たに60床の特別養護老人ホームを併設しました。

外科は院長の私(胃班、57回)、池田謙(胆道班、71回)、和田真広(乳腺班、78回相当)、内田寛(下部消化管班、82回相当)、迫裕之(上部消化管班、83回相当)、林応典(後期研修医、91回)の慶大外科6名に、北里大学外科から池田篤(下部消化管班)、横田光央(後期研修医)の2名を加え、計8名の常勤スタッフで、年間約600件の手術をはじめ、一般・救急領域とも地域医療に貢献し、学会活動も盛んです。2名の内視鏡外科学会技術

認定医を中心に腹腔鏡手術にも積極的に取り組んでいます。呼吸器外科(自治医科大学より常勤医2名)とも連携良好です。初期研修医は5年連続フルマツチで12名いて、来春1名が慶大外科へ入局します。

財務の観点から、豊かな自己資本を有する当院も、多くの医療機関と同様に診療報酬制度のマイナスイタや消費増税等によって損益差額が年々減少し、堅調であった経営状況にも陰りが出始めました。地域偏在の影響を受け、医師(常勤医82名)や看護師の増員も病院全体の課題として残されています。逆境をチャンスと捉え、現在、地域医療構想策定GLに従い、BSC戦略マップの下、地域包括ケア病棟を含む病棟再編、地域医療支援病院取得による外来変革等、よりよい地域完結型医療提供体制を目指し、多方面から改善計画が進んでいます。外科スタッフは病棟再編やクリニカルパス整備等においてもリーダーとして活躍中です。

## 開業記



林 俊行 (79回)

約2年前の2013年11月1日に世田谷区桜上水に「林診療所」を開業致しました。開業に際しましては吉田教授と東京医療センター・中村院長には多大なるご援助を頂きました。また佐藤診療所・佐藤周三先生には開業を手取り足取り教えていただきました。あらためてこの場を借りてお礼申し上げます。

約2年前の2013年11月1日に世田谷区桜上水に「林診療所」を開業致しました。開業に際しましては吉田教授と東京医療センター・中村院長には多大なるご援助を頂きました。また佐藤診療所・佐藤周三先生には開業を手取り足取り教えていただきました。あらためてこの場を借りてお礼申し上げます。

活習慣病や風邪などが多く、脳神経外科では頭痛・めまい・外傷・てんかん・認知症などを診療しています。外科医にとつての開業は内科医にとつての開業とは違いがあると思います。勤務医の外科医にとつては手術が中心です。そのため手術から離れる外科医の開業がもたらす影響は、心機一

転という面もありつつも、寂しさや喪失感を感じないわけにはいきません。勤務医の間は「外科医」という目標や肩書きは、私を随分励ましてくれました。しかし、外科医から、かかりつけ医に転じた今、そのプライドは捨てなければなりません。どれだけ多くのものを「外科」が私に教えてくれたのかを感じながらも、「外科」を取り去ったあとに残った、自分自身の医師としての志の原点を振り返り、新しい誇りを築きなおさなければなりません。

初診で会う相手を出来るだけ良い笑顔で迎え入れることや、痛い部位をしっかりと触診することなど、いろいろです。「外科医」をやめて、少し「医師」らしくなることが出来たような気さえるのです。(それは恥ずかしいながらも、外科の先輩方の貴重な教えを無駄にしていた証だと反省しています。)それと同じように、いつか「医師」をやめて、ただの「おじいさん」になった私は、何かをその時に反省するのでしょうか。「医師」という肩書きに頼っている自分を発見するのは、少し怖いような気がします。日々、医師である以前に個人としても、精進しなければと思っています。

## 私の研究

### アンチドーピング活動にたずさわって



済生会神奈川県病院 予防医療センター 呼吸器外科 酒井 章次 (57回)

私の研究というテーマに相応しいかわかりませんが、選手と直接対峙して、現場での採尿を行う検査員として、2005年よりアンチドーピング活動を行っています。ドーピングの歴史は古く、最古の記録はアムステルダム運河水泳競技です。

ローマ五輪自転車競技での覚醒剤による死亡事故を機に、グルノーブル冬季五輪とメキシコ五輪からドーピング検査が正式に始まりました。違反者は後を絶たず、手口も巧妙になり、年々検査は厳しくなり、検査件数も増えています。ドーピングを禁止する理由は、大きく分けて次の4

1. 選手自身の健康を害する
  2. 不誠実(アンフェア)
  3. 社会悪(青少年への影響など)
  4. スポーツ固有の価値を損ねる
- 一流のスポーツ選手が社会に与える影響は大きく、ドーピングは許されることではありません。またフェ

ドーピング検査は、2020年に開催される東京大会を前に検査件数は増加しており、平成26年度では6366件の検査が施行され、そのうち違反件数は7件で、メチルテストステロンを使用した選手への罰則は競技成績の失効、2年間

の競技会への出場資格停止という厳しいものでした。禁止薬物使用の責任は、理由はともあれ、選手本人が取ることとなります。風邪薬に含まれているエフェドリンなども競技内検査では禁止されているので、トップアスリートが対象であるときは、我々医師としても、禁止薬物でないことに留意して処方箋を出すことが大事だと思います。

昨今、ロシア陸連の、検査機関も巻き込んだ組織ぐるみのドーピングが話題になっていますが、ロシア陸連に対する対応は、国際試合に出場させない、ロシアでの国際大会開催の禁止という厳しいものです。これは世界アンチドーピング機構(WADA)が、スポーツでのアンフェアは許さないという、強い姿勢を示したものとと言えます。



# 第38回日本栄養アセスメント 研究会を終えて



和洋女子大学大学院 教授  
千葉県済生会習志野病院外科  
櫻井 洋一 (61回相)



平成27年6月6・7日、千葉県市川市にある和洋女子大学国府台キャンパスにて第38回日本栄養アセスメント研究会を開催させて頂きました。わが国では急速な人口の高齢化に伴い疾病構造が変化・複雑化し、栄養状態不良の高齢者が増加しており、急性期病院から在宅まで適切な栄養状態の把握とそれに基づいた栄養管理がますます重要となつていきます。



月にわが国の静脈経腸栄養ガイドラインが改訂・出版され、栄養管理に関わるすべての職種が、ガイドラインにしたがった栄養管理を行うことが可能となり、各病態に応じた適切な栄養アセスメントを行い、適切かつ正確に栄養状態を把握することが求められています。栄養アセスメントは各病態に応じて微妙に異なることから、今回の研究会で、脳血管疾患・摂食嚥下・リハ

ビリテーション・肝胆膵疾患・高齢者のそれぞれの患者に対する栄養アセスメント・栄養療法について5つの主題セッションを組み、病態別に十分に議論して頂きました。研究会の最重要のシンポジウムは「周術期患者に対する栄養アセスメントと栄養管理」と題して全国から外科代謝栄養に著

名な外科医により有意義な議論が行われました。シンポジウム1、主題6、ポスター1、特別講演、ランチョンセミナーの計37題の発表が行われました。

研究会前日には和洋女子大学との共催による「国際シンポジウム」も企画し、わが国と海外諸国の栄養管理の実態と管理栄養士教育の相違点と今後の展望についても、中国、韓国、カナダからのシンポジストを招待し、同時通訳も用意し十分に議論されました。

外科栄養領域では著名であった元大阪大学故岡田正名普教授の後任で大阪大学小児外科教授を退任された福澤正洋研究会代表世話人(現大阪母子医療センター総長)にも「今回の研究会は国際色豊かで、かつ参加者も倍増し盛会であった」とお褒めの言葉を頂きました。医療施設の栄養サポートチームで将来活躍することとなる管理栄養士養成課程の学生にも全員参加を呼びかけ、学生を含めて360名の参加を得て盛会のうちを終了しました。

2015年7月15日から17日に浜松市のアクタタワー等を会場として、「世界へ、未来へ発信する消化器外科医療」というテーマの下、第70回日本消化器外科学会総会を開催させて頂きました。約6400名という多数の先生方にご参加頂き盛会裡に無事終了することが出来ました。開催に際し、刀林会の先生方には多大なるご指導、ご協力、また多額のご寄付を賜り、改めまして御礼申し上げます。

# 第70回日本消化器外科学会 総会を終えて



浜松医科大学  
外科学第二講座  
今野 弘之 (57回)

頂いたのではないかと思っております。さらに、上級セッションを本来の在るべき姿に戻し、特にパネルディスカッションはControversialなテーマについて、パネリスト間での討論に加え、アンサーパッドにより参加者の意見を反映させるという方式をとりました。司会者の

ご負担はかなり増えてしまいました。ご理解とご協力を賜り、よりエキサイティングなパネルディスカッションを行うことができました。会期全体を通して、教室、同門を挙げてhospitalityに努めましたが、多くの先生方からお褒めの言葉を頂戴し、静岡で初めての総会

第70回総会は今後の本学会の在り方を示す、ターニングポイントの総会となりました。学会として国際的な学術集会を目指すことが決定されており、本総会では国際化を更に押し進める目的で、上級演題の約50%と一般演題の一部を英語での発表・討論とさせて頂きました。また、海外から多くの若手外科医に参加して頂けるようグラントを設置し、海外からの参加を呼びかけました。演題発表や討論、懇親会などを通して、我が国の中堅・若手の消化器外科医との交流を深めて

## 第70回日本消化器外科学会総会 決算書

収入の部	金額
参加費	91,665,000
評議員懇親会費	評議員 (@5,000×321)
1,605,000	
広告収入	3,585,600
共催収入	75,492,000
展示収入	38,394,000
寄付金	日本製薬団体連合会・ワックスマン財団ほか
22,720,000	
収入合計	233,461,600

支出の部	金額
システム利用料	20,269,440
人件費	消化器外科学会事務局総会担当スタッフ
3,940,758	
プログラム	翻訳料 (プログラム、HP、レター類)
358,975	
制作物	会長印、ポスター、ロゴ、封筒、名刺、プログラム、ネームカード等
15,846,586	
記録撮影料	学会記録保管用撮影
534,600	
消耗品	学会記録保管用カメラ
101,136	
交通旅費	会議参加・会場視察・打ち合わせほか (消化器外科学会事務局)
1,647,956	
保険料	イベント保険加入料
638,330	
事務用品・消耗品	当日の資料作成用文具等含む
26,019	
顧問料	弁護士 意見書作成報酬ほか
378,000	
運営関係費	
118,087,549	
医局関係費	評議員拡大プログラム委員会、全員懇親会、制作費等
34,152,014	
事後処理費	礼状送付等
44,000	
管理費	日本消化器外科学会運営管理費、納税準備金
37,436,237	
支出合計	233,461,600

として好評であったことを大変嬉しく思っています。会期中、感謝の気持ちをお伝えする場として、二日目に刀林会の先生方だけの食事を催させて頂きました。お忙しい中、多くの先生方にご出席を賜り、私自身も楽しいひとときを過ごさせて頂きました。学会終了後には国内外より心温まる数々のメールや礼状を頂戴し、教室員共々とても嬉しく思いました。



# 第 69 回日本食道学会

## 学術集会を終えて



東海大学医学部  
消化器外科 教授

小澤 壯治 (60回)

2015年7月2(木) 3日(金)の2日間、第69回日本食道学会学術集会をパシフィコ横浜にて開催し、大過なく終えることができました。刀林会の先生方による数々の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

約1300名が参加され、盛況な学術集会になりました。「学術集会」の主催は本会が初めてで、開催に際し時に判断の難しいところで重要な決断を迫られることがございましたが、要所で刀林会の先生方よりご助言ご助力を賜りました。その内容を挙げますと紙面に収まりませんので割愛いたしますが、特に会長招宴で掛川暉夫先生(33回)ならびに北島政樹先生(45回)に

より激励のお言葉を賜りましたことには忘れ得ぬ思い出です。また、テーマにちなんだ「挑戦的」部分として、「国際シンポジウム」を設定し、安藤暢敏先生(50回)のご尽力のもとにインド・台湾・香港より3名の先生にご講演いただきました。司会はSDEの Vice President である北川雄光先生(65回)にお願ひし、活発な議論を引き出し、かつ円滑に進行され、食道学会会員にとつ

て意義深いセッションとなりました。会長講演では幕内博康先生(49回)の司会の元で「食道学への挑戦とその検証」と題し、食道癌の悪性度診断と新しい治療法に関する研究、食道疾患の低侵襲外科治療・管腔内視鏡治療、そしてJCOG臨床研究への積極的協力体制などについて発表いたしました。学会終了後に会長講演についてお褒めのお手紙を頂戴しましたが、いずれも慶應義塾大学で先生方と一緒に取り組みだことばかりで、これほど嬉しいことはございませんでした。

本会には多くの先生方に支えられた学術集会であったことを実感しております。刀林会の先生方に厚く御礼申し上げます。お礼のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導・鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

このたび、第29回日本内視鏡外科学会総会を平成28年12月8日から10日までの3日間、パシフィコ横浜にて開催させていただきましたこととなりました。日本内視鏡外科学会では内視鏡外科手術研究会として1991年に発足し、1995年の第8回より日本内視鏡外科学会となつて今日に至っております。その発展にはこれまで多くの刀林会の先輩方が深く関わっており、過去に6名の会長を刀林会より輩出してまいりました。(第3回掛川暉夫君、第5回比企能樹君、第9回北島政樹君、第23回森川康英君、第

25回松本純夫君、第27回若林 剛君) 新しい学会ではありますが、発表演題数、参加人数とも年々増加の一途をたどっており、来年は5000人規模の参加者が予測されます。これは、まさに今日の内視鏡外科手術の普及を反映しているものと考えています。

今回の総会では、『自我作古』をテーマとしました。中国の『宋史』に見られる言葉ですが、杉田玄白らの偉業を称え福澤諭吉先生も使われた言葉です。これは前人未踏の新しい分野でも、困難に耐え開拓する勇氣と使命感をもって切り

# 第29回日本内視鏡外科学会 総会開催にあたって



北里大学医学部  
外科 教授

渡邊 昌彦 (58回)

拓くべしとの意味であります。近年、内視鏡外科手術は、日常臨床でも一般的に行われるようになりました。一方で、より高い精度と安全性を求めた術式の定型化、教育、適応拡大、画像支援システムによるナビゲーション手術およびロボット支援手術などの技術革新、新しいテーマが沢山あります。今回の総会では、日本の内視鏡外科が世界最高レベルに発展し、より多くの患者様により良い医療を提供するため、真摯に議論してまいります。

すでに総会の準備は始まっております。今回は特に最前線で活躍している若手中堅外科医から広くアンケートで意見を集め、斬新で魅力あるプログラムになるように教員全員で知恵を絞つていくところです。最後に、この第29回日本内視鏡外科学会総会を充実した実りある会にするためには、刀林会の先生方のご指導とご協力が是非とも必要です。絶大なるご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### 第 69 回日本食道学会学術集会 収支決算報告書

収入の部	金額
1. 参加費	16,643,000
2. セミナー共催費	15,552,000
3. 展示会収入	4,752,000
4. 広告収入	1,684,800
5. 補助金	4,663,280
6. 寄付金	5,143,600
刀林会 (2,740,500円)	
その他 (2,403,100円)	
7. 受取利息	1,385
<b>支出合計</b>	<b>48,440,065</b>

支出の部	金額
1. 事前準備費	7,645,938
(1) 事務局人件費	2,244,042
(2) 印刷・製作物費	3,703,400
(3) 演題処理関係費	664,800
(4) 通信費・郵送料	1,033,696
2. 当日運営費	37,876,092
(1) 会場関係費	14,767,435
(2) 機材費	3,941,000
(3) 看板・装飾費	307,000
(4) ポスター設営費	1,671,600
(5) 展示会設営費	1,050,000
(6) 人件費	2,911,760
(7) 招待者関係費	4,501,294
(8) 会長招宴・全員懇親会費	7,857,677
(9) 会議・飲食費	307,670
(10) 運営諸経費	560,656
3. 事後処理費	914,288
4. 業務委託費	626,882
5. 振込手数料	8,100
消費税 (8%)※対象項目に対し	1,368,765
<b>支出合計</b>	<b>48,440,065</b>

第29回日本内視鏡外科学会総会  
会期 2016年12月8日(木)～10日(土)  
会場 パシフィコ横浜

自我作古  
Be the First. Make History.

献血 ウェンoglobulin IH 5% 静注 5g/100ml・10g/200ml  
Venoglobulin IH 5% 0.5g/10ml・1g/20ml・2.5g/50ml・5g/100ml・10g/200ml

血液分画製剤 (血液凝固阻止剤)  
**ナイアート** 静注用 500単位 / 1500単位  
Neuart iv. 500 units・1500 units

製造販売元 (資料請求先)  
一般社団法人  
**JB 日本血液製剤機構**  
東京都港区浜松町2-4-1  
VGX-NAT (A5 1/2) 2015年5月作成

※効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



# 日本脳神経外科国際フォーラム

## (と同時通訳夏季研修会)



獨協医科大学脳神経外科

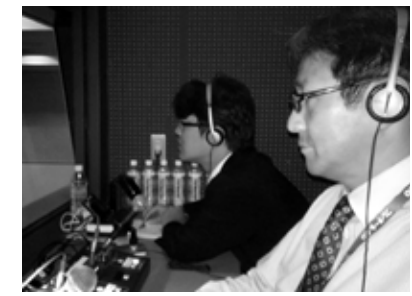
萩野 雅宏 (67回)

「グローバル化」の一端  
でしようか、日本循環器学  
会などは数年前から、総会  
の公用語を英語としていま  
す(日本語不可ではないよ  
うです)。一方で「国際学  
会」はさておき、演者も聴衆  
もほとんどが日本人の学会  
で、発表すべてを英語で行  
うことは現実的でない」と  
いう意見も根強く、脳神経  
外科では有志による「同時  
通訳団」というコミュニ  
ティ(日本脳神経外科同時  
通訳団)アジアをリードす  
る日本医学界からの発信  
(2005)が、シンポジウム  
などで同時通訳を担当して

います【写真1、手前が筆  
者】。  
この同時通訳の研修会  
は、毎年7月に「日本  
脳神経外科国際フォーラム  
(Japan Neurosurgical  
English Forum; JNEF)」  
という学会とともに開かれま  
す。こちらは「プレゼンテー  
ションを英語で行う」こと  
のみを条件とする会合で、  
脳神経外科に関する演題で  
あればジャンルを問いません。  
医学英語やプレゼン  
テーションの専門家が同席  
し、一演題ごとにレビュー  
されるのが特徴で、語句  
の選定や発音に始まって、  
アクセント、抑揚、視線の

配り方やマイクの持ち方、  
ポイントの使い方、果て  
はフォント選びや色使い、  
アニメーションの要否に至  
るまで、その指導は「目か  
らウロコ」の連続です【写  
真2、指導を受ける若手医  
師】。

それぞれの発表はまた  
scientific value、  
presentation manner、  
English usage の3つの項  
目で採点され、優れた発表  
には賞金が授与されるオマ  
ケつきです。とりわけ若い  
医師たちには、「これから  
国際学会にデビューする」  
といったタイミングで演題  
を出し、具体的な評価や指  
導を受けるよう薦めていま  
す。



▲写真1



▲写真2

私は縁あって、かれこれ  
20年近くこのコミュニテイ  
／学会に参加しています。  
気がつけば次第に古株とな  
り、言語能力も低下する一  
方ですが、2017年のこ  
の会お世話をする役目が  
回ってまいりました。皆様  
のご支援、ご協力を伏して  
お願いする所存です。よろ  
しくお願いいたします。

# 第46回恙無会 (つつがないかい、

## 旧食研外科研究室同窓会) 報告

恒例となった5月の第3  
土曜日、2015年5月16  
日(土) 12時半より約3時  
間、これも恒例となった銀  
座BRBで23名参加のも  
と、開催された。この日は  
晴れて、大阪では都構想の  
住民投票が行われていた。  
また、昨年同様、銀座6丁  
目の松坂屋あと再開発地区  
は歯抜けの状態であった。  
歩行者天国の銀座通りで  
は、いわゆる「爆買い」の  
中国人と思われる団体旅行

客の姿が目についた。  
いつものように、丸山幹  
事の司会のもと、最初に、  
最高齢者の前田外喜男君  
(29回) から開会のご挨拶  
を、そして関根迪弍君(29  
回) より乾杯のご発声をい  
ただき、会がスタートした。  
庶務報告、会計報告等が  
行われたのち、役員改選と  
なったが、満場一致で、丸  
山幹事の続投が即決した。  
この1年で逝去されたのは  
石引久弥君(37回)で、こ  
のあと行われた個人スピー  
チで、多くの参加者が彼の  
学問に対する真摯な態度、  
それに基づいた立派な業績  
等について触れていた。  
また新病院棟建設募金成  
績に、三四回連続のそ  
れが不良なので、一層の協  
力を呼びかける発言もあつ  
た。  
明年5月第3土曜午後、  
BRBでの再会を約して散  
会した。  
(丸山・吉野)

# 診療体系グループ紹介

## 呼吸器外科



慶應義塾大学医学部  
外科学(呼吸器) 教授

浅村 尚生 (62回)

診療部長、教授(浅村)  
が2014年10月に着任し  
て、ほぼ1年が経過した。  
この間、呼吸器外科の新し  
い診療、研究、教育体制の  
構築に努めてきたが、まだ  
まだ完成にはほど遠い現状  
である。それでも、漸く最  
初の一步が踏み出せた実感  
もあり、また研究室の雰囲気

気も皆さんから格段に良く  
なったと言われるように  
なった。  
「診療」現在診療部長を  
浅村(教授)、副診療部長  
を大塚(准教授)、神山(学  
部内講師)を中心に呼吸器  
外科全般の診療をカバーし  
ているが、盤石な体制には  
まだほど遠いのが現状であ  
る。今後、海外留学からの  
帰国者を中心に、より層の  
厚い体制の整備を急ぐ。さ  
らに、喫緊の課題として、  
初診紹介患者増への対応あ  
る。このために、現在進め  
ているのは、地域医療連携  
勉強会の充実、ホームページ  
の整備と充実、紹介患者  
の報告システムの充実など

である。また、内科、放射  
線科との強調をすすめ、よ  
り進行した難度の高い進行  
癌の手術に邁進したいと考  
えている。  
「研究」肺癌および肺移  
植について、包括的な基礎  
臨床研究の体制を構築した  
い。2017年に浅村が、  
第18回世界肺癌学会  
World Conference on  
Lung Cancer, WCLC-  
Yokohama Congress  
Presidentおよび、第58回  
日本肺癌学会学術集会の会  
長を務めることになって  
おり、これを睨んだ周到  
な準備が必要である。ま  
た、2017年に世界肺  
癌学会IASLCの Staging  
and prognostic factors  
committeeのChairに就  
任して第9版のTNM分類  
の改訂に臨むことから、こ  
の委員会の活動を支える事  
務局機能と基礎研究につい  
ても積極的に展開してい  
たいと考えている。  
「教育」卒後教育は、外  
科学教室全体として現在大  
きな変革の最中にある。サ  
ブスペシャリティとしての  
呼吸器外科についても、関  
連病院と一丸となった効率  
的な教育システムの構築を  
進める必要がある。呼吸器  
外科関連病院との教育協議  
会を組織して、積極的にシ  
ステムの構築を進めたいと  
考えている。卒前教育につ  
いては、昨年度より特にポ  
リクリ実習の学生達に対し  
て、呼吸器外科の魅力を理  
解してもらうべく、多くの  
時間を割いて彼らと「直接  
接する」機会(「朝食会」  
など)を多くする努力を続  
けている。長期的視野に  
立つて、地道な努力を続け  
ていきたい。



前列左より、湯浅鏑介、田中武彦、関根迪弍、前田外喜男、武石夫人、大槻道夫、  
椎名栄一。  
中列同、丸山圭一、比企夫人、山本修三、丸山夫人、古谷健二、比企能樹、  
大槻夫人、柴崎智津子(旧姓染谷、研究室秘書)。後列同、武石令息、本橋  
五十路(旧姓田村、胃鏡室)、宮崎道夫、横山拓也、佐藤 清、榎本耕治、  
秋里和夫、吉野肇一



# 追悼

## 故 戸谷重雄先生を偲んで

慶應義塾大学医学部  
外科（脳神経）教授

吉田 一成 (59回)

慶應義塾大学名誉教授、戸谷重雄先生におかれましては、本年7月29日、肺炎のため安らかに84年の生涯

を終えられました。戸谷先生は、昭和5年港区三田にお生まれになり、慶應義塾幼稚舎から慶應義



塾大学医学部卒業まで、一貫して慶應義塾で学ばれました。ご両親は、慶應義塾とは無縁であったそうですが、幼い頃、ご両親と慶應義塾幼稚舎に通う生徒たちをお見かけする機会が多く、その上品な姿に憧れたことが、幼稚舎に入学されるきっかけになったと伺っております。戸谷先生は、慶應義塾で教育を受けるけたことを大変、誇りに思っておられました。

昭和45年、医学部が混乱の渦に巻き込まれていた時代ですが、戸谷先生は、済生会宇都宮病院から、慶應義塾大学外科学教室・脳神経外科に帰室されました。昭和59年、戸谷先生は、慶應義塾大学外科学（脳神経外科）教授に就任されましたが、帰室後、教授に就任されるまでの13年間は、戸谷先生にとりまして、苦難の時代であったと伺っております。この苦難を乗り越え、新しい体制を整えられて、戸谷先生は、現在の慶應義塾外科学の礎を築かれました。そして、日本脳神経外科学会、日本脳卒中中

外科学会、日本脳ドック学会など、数多くの学会を主催され、脳神経外科の幅広い分野で活躍されました。また、未来を先導して、日本頭蓋底外科学会、日本神経内視鏡学会の設立にも貢献されました。戸谷先生の時代は、脳神経外科にとりましては、顕微鏡、内視鏡が導入され、CT、MRIなどの診断機器が発達し、脳ドックという新しい検診システムが普及するなど、革新的なことが多くございました。先生は、いち早く、予防医療、低侵襲医療に注目し、時代の潮流に乗った脳神経外科を築き上げました。

平成27年11月15日、外科学教室葬として、戸谷先生の葬儀、告別式が執り行われました。会場の北里講堂は、休日、雨天にもかかわらず、満席となり、故人のご人徳が偲ばれました。戸谷重雄先生の業績をたえ、これまでのご指導に深謝申し上げますとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「全国で最も印象の薄い地味な県」として有名な福井県。人口80万人弱の小県ではあるが、それでも世帯当たりの貯蓄額、共働きの率、社長輩

出率等すべて日本一、また近年慶大研究チームが発表した都道府県別「子どもの幸福度分析」でも、堂々の全国第1位なのである。そんな当県の三四会員は現

# 地域便り

## 北陸の地、福井より



福井県越前市 医療法人池慶会  
池端病院 理事長

池端 幸彦 (59回)



在、中村康孝会長（50回）以下たった10名程の少数精鋭であるが、実は「刀林会」メンバーが大多数を占め、福井県三四会の開催時はいつもほぼ「福井県刀林会」の様相を呈している。

ここで、その会員を簡単に紹介しておきたい。最年長の宮崎茂和先生(36回)は、越前蟹の水揚げで有名な坂井市三国町内で、地域の基幹病院として急性期から慢性期まで幅広く診療を展開している医療法人慈風会宮崎病院(藤井俊哉院長・67回相当)の前理事長で、ご子息(宮崎茂則先生・75回相当)と共にまだまだ現役でご活躍、更に福井県三田会副会長としても我々後輩をご指導頂いている。次いで嶋田貞博先生(41回)は、同じく坂井市内の医療法人博俊会春江病院会長として、ご子息で理事長の嶋田俊之先生(78回相当)と共に日々診療に従事し地域医療に貢献しておられ、来年4月に新築移転予定である。そして中村康孝先生(51回)は私と同じく越前市在住で、現福井県三四会

会長。現在も地域の基幹病院である(財)中村病院理事長として活躍中で、現在本院の大規模新築改修の最中である。更に齋藤英夫先生(53回)は、福井市内にヒデ齋藤クリニックを新規開業し、各研修会にも精力的に出席され活躍中である。最後の私は、在宅を含めた慢性期医療中心に医療と介護を一体的に提供する小病院の経営に四苦八苦しながら、日本慢性期医療協会副会長、福井県医師会副会長として忙しい日々を送っている。このように皆ある種の郷愁を感じながらも既に手術室を離れる事が多いが、刀林会マインドは失わずに地域医療に邁進しておられる先生方である。福井は、東尋坊や永平寺と言った観光名所と共に一つのお国自慢が、「若狭カレイ」、「甘エビ」、「しこ」、「越前そば」、「ソースカツ丼」、「厚揚げ」などの海の幸山の幸。そしてその代表格は、やはり皇室にも献上される「越前ガニ」である。毎年11月6日解禁で、正に今が旬。北陸新幹線も開通し、ぐっと近くなった北陸へお越しの際には、是非福井へも足を伸ばしてご一報頂ければ、少数精鋭の「福井刀林会」を緊急開催してご接待させて頂く覚悟である(笑)。

最後に私事ではあるが、この度、不肖私の愚息達が揃って刀林会に入会させて頂いたので(池端昭慶・般外91回相当、池端幸起・心外92回)、先輩後輩の先生方にまたどこかでご指導頂ければ幸いです。



地域便り

讃岐より



医療法人社団 三恵会  
木太三宅病院 院長

三宅 泰二郎 (61回)

光陰矢のごとしと申しますが、私が香川・高松に参りまして、四半世紀が経過いたしました。当初は、知己もおらず、大変不安な状況ではありましたが、当地の同窓会であります讃岐三四会の諸先輩方のご指導や、香川大学医学部の皆様のご助力もあり、何とかこの地の医療の一翼を担って今日に至っております。讃岐三四会は、現在14名の会員が所属しております。刀林会のメンバーでは、50回生の四宮陽一先生・76回生の吉馴健太郎先生がいらっしゃると思います。年々定期的な集まり、親睦を図っております。

瀬戸内に面しております高松の地は、映画のロケ地としてもしばしば登場するほど風光明媚なところで、気候はたいへん温暖で、県民性もとても温厚な人が多い印象です。最近では、うどん県としても売りに出していますが、うどん以外にも瀬戸内の水産物を中心に、美味しいものが豊富に揃っております。

外科系医療機関は、地域にどのような医療を供給し、周辺医療機関とどのような関係を構築すれば生き残ってゆけるのか、など大変悩ましい問題に、今もなお対峙し続ける日々です。また、地方では、都市部以上の早さで高齢化が進んでおり、若い世代の人々の流出には、今もって歯止めがかかっていないようです。圧倒的に不足する医師・看護師・介護職員をどのように確保し、良質の医療・介護を地域に供給してゆくかなど、地方ならではの課題も多く、なかなか大変ではありますが、規模の小さな民間医療機関らしいフットワークの良さをもって、これらの難題を克服してゆきたいと考えております。

30年前外科医を志した当時の初心を忘れることなく、激変する医療環境にも適切に対応しつつ、地域に貢献できる医療機関であり続けるよう、今後も精進していくつもりです。刀林会の皆様におかれましては、これまで以上に、ご指導頂きますよう、お願い申し上げます。



高松は、昔より四国の玄関として役割を担ってきたためか、人口に比して、大変多くの医療機関が集中しております。こうした環境のなか、私どものような小規模の

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきます。現在、多摩丘陵病院にて研修をさせていただきます。今後とも御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

外科学教室  
新入室者紹介

92回生



多摩丘陵病院  
青山 純也

出身高校：慶應義塾  
志木高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：剣道部



日野市立病院  
松岡 信成

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：競走部・車ドライブ



伊勢原協同病院  
池端 幸起

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：水泳部



那須赤十字病院  
磯部 雄二郎

出身高校：聖光学院高等学校  
出身大学：浜松医科大学  
クラブ：趣味：ボート部、料理



静岡市立清水病院  
佐藤 瑞仁

出身高校：愛光学園  
出身大学：順天堂大学  
クラブ：趣味：サッカー

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきます。現在、多摩丘陵病院にて諸先輩方の御指導の下、充実した日々を過ごしております。一日でも早く先輩方に追いつけるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきます。現在、川崎市立川崎病院にて諸先輩方の御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきます。現在、川崎市立川崎病院にて諸先輩方の御指導のほどよろしくお願い申し上げます。



川崎市立川崎病院  
蔵成 勇紀

出身高校：芝高校  
出身大学：横浜市立大学  
クラブ：趣味：水泳部



国立病院機構  
東京医療センター  
五十嵐 陽子

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきます。現在、東京医療センターにて研修しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



北里研究所病院  
蛭川 和也

出身高校：巣鴨高校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：馬術部・軟式庭球部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきます。平成27年度入室者の学年幹事を務めております。現在は北里研究所病院で熱心な先輩方の下、充実した外科研修の日々を送っております。常に謙虚さと学びの姿勢を忘れず、信頼される外科医を目指して日々研鑽に励みたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきます。現在、川崎市立川崎病院にて諸先輩方の御指導のほどよろしくお願い申し上げます。



静岡赤十字病院

菊池 雅之

出身高校：暁星高校  
出身大学：東京医科大学  
クラブ：趣味：アメリカンフットボール

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂くことになりました。菊池雅之と申します。現在、静岡赤十字病院で卒後3年目の専修医として出向させて頂き御指導頂いております。1日も早く一人前の外科医になれるように精一杯努力して参りますので、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



荻窪病院

横瀬 崇寛

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：硬式庭球部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました。92回生の横瀬崇寛と申します。現在は荻窪病院で後期研修をしており、諸先輩方から熱い指導を賜っており、ます。外科医として成長できるように精一杯努力して参りますので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



永寿総合病院

久保 祐人

出身高校：明星高校  
出身大学：兵庫医科大学

初めまして。慶應義塾大学医学部外科学教室92回生の久保祐人と申します。

現在は東京都上野にある永寿総合病院でレジデントとして働いております。出身は関西であります。が、研修医から上京し、縁があり、今年から慶應義塾大学という由緒ある素晴らしい貴校に入局させて頂きました。忙しい日々を毎日過ごしていますが、外科医としてまだまだ未熟だと思っております。先生方の御指導、御鞭撻を元にこれから頑張っていく所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。



平塚市民病院

荒井 信彦

出身高校：逗子開成高校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：サッカー

平塚市民病院脳神経外科でお世話になっております。荒井信彦と申します。私は神奈川県葉山町の生まれで、中高は地元の開成学園に通いました。スポーツは小中高大と15年間サッカー一筋でした。まずは脳外科の基本を着実に身につけ、サッカーで培った精神力、しつこさを武器に少しでも医学の発展に寄与できるように精進して参りたいと存じます。



済生会中央病院

鈴木 陽太

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：バレーボール部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました。92回生の鈴木陽太と申します。慶應義塾大学病院で初期研修を行い、現在は済生会中央病院で研修をしております。諸先輩方の温かいご指導のもと日々充実した外科研修を送らせていただいております。今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



川崎市立井田病院

綿貫 瑠璃奈

出身高校：慶應義塾  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：ゴルフ部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました。92回生の綿貫瑠璃奈と申します。現在は川崎市立井田病院にて諸先輩方より熱心で温かい指導を賜り、充実した日々を過ごしております。未熟者ではありますが、真摯な気持ちで精進していく所存ですので、今後とも御指導御鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



川崎市立川崎病院

飯尾みなみ

出身高校：東邦大学付属東邦高校  
出身大学：筑波大学  
クラブ：趣味：ゴルフ部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました。92回生相当の飯尾みなみと申します。横浜市立市民病院で初期臨床研修を行い、現在は川崎市立川崎病院で外科研修をさせて頂いております。今後ともご指導御鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



練馬総合病院

牧野 暁嗣

出身高校：筑波大学附属高校  
出身大学：山梨大学  
クラブ：趣味：ハンドボール部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました。92回生相当の牧野暁嗣と申します。山梨県立中央病院で初期研修を行い、現在は練馬総合病院で後期研修を行っております。先生方の熱いご指導の下、日々精一杯の努力をしていきたいと考えております。今後ともご指導御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



足利赤十字病院

大石 裕美子

出身高校：静岡雙葉高等学校  
出身大学：宮崎大学  
クラブ：趣味：硬式テニス部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂くことになりました。92回生相当の大石裕美子と申します。卒後二年間は国立病院機構東京医療センターで初期臨床研修を行いました。現在は足利赤十字病院にて、諸先輩方の温かいご指導を賜りながら充実した日々を過ごしております。未熟者ではございますが、精一杯精進いたしますので、今後ともご指導御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



済生会横浜市東部病院

吉田 啓佑

出身高校：栄光学園  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：ダンスサークル

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂いたことになりました。92回生の吉田啓佑と申します。卒後2年間は横浜労災病院にて初期研修を行いました。現在は済生会横浜市東部病院で諸先輩方のご指導を賜りながら充実した日々を送っております。未熟者ではございますが、精一杯精進致しますので、今後ともご指導御鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



東京歯科大学 市川総合病院

笹尾 亮太

出身高校：弘学館高校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味：ラグビー部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました。92回生の笹尾亮太と申します。現在、脳外科として東京歯科大学市川総合病院にて研修をさせて頂いております。一步一步確実に成長できますよう努力を重ねていく所存です。今後ともご指導御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



NHO栃木医療センター

山下 俊樹

出身高校：都立八王子東高校  
出身大学：大分大学  
クラブ：趣味：水泳部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂くことになりました。92回相当の山下俊樹と申します。現在はNHO栃木医療センターで、諸先輩方のもと充実した研修をさせて頂いております。一人前の外科医と成るべく精進して参りますので、今後ともご指導御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。





国立病院機構  
東京医療センター  
村瀬 真

出身高校・富山中部高校  
出身大学・熊本大学  
クラブ・榎・バドミントン部・  
ツーリング

東京医療センター脳神経外科で4月からお世話になっております。村瀬真と申します。自分の未熟さを実感する毎日でございますが、1つ1つの症例を大切に精進して参りますので、御指導、御鞭撻の程をお願い申し上げます。



済生会中央病院  
小池 和成

出身高校・桐蔭学園高等学校  
出身大学・北里大学  
クラブ・趣味・馬術部、IFMSA・  
サウナ、ぶらり散歩

この度外科科学教室に入室させていただきました。小池和成と申します。東京医療センターで初期研修を行い、その際に慶應義塾大学の脳神経外科に魅せられ、お世話になることになりました。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



都立小児総合  
医療センター  
寺田 正次

この度は刀林会に入会させていただきます。ありがとうございます。私は金沢大学卒業後、東京女子医大心研、横浜市大、都立清瀬小児病院を経て2010年より当院で小児心臓手術に専念してまいりました。今後は若手心臓外科医の手術指導に情熱を傾けていく所存です。



東京都済生会中央病院  
佐藤 隆宣

この度は、伝統ある刀林会へ入会させていただきました。私は1993年に徳島大学医学部を卒業し、すぐに帰京し東京医科歯科大学第2外科に入局しました。以後21年間医局に在籍しておりますが、2014年7月より済生会中央病院の乳腺外科にお世話になっております。どうぞよろしく御願いたします。



国立病院機構  
埼玉病院  
配島 功成

2006年に東京慈恵会医科大学を卒業し、現在埼玉病院心臓血管外科にて働かせて頂いております。部長の林一郎先生を始め、医長の笠原啓史先生、コメディカルの方々のお力添えの元、沢山の手術に参加させて頂いております。今年度より刀林会に入会させて頂けることとなりました。熱意を持って、心臓血管外科を精進して参りますので、ご指導・ご鞭撻の程宜しく申し上げます。



公立福生病院  
次田 正

この度、刀林会に加えていただきました。60回生相当の次田正と申します。修練を受けた東京女子医科大学消化器病センター外科を離れてから、民間の病院で診療を続けておりましたが、いろいろなご縁により、今春から公立福生病院でお世話になっております。烈士暮年、壮心不已の心境ですが、歴史ある刀林会の一員として恥じぬよう外科医を全うする所存です。



荻窪病院  
澤 重治

荻窪病院心臓血管外科の澤 重治(さわしげはる)と申します。昭和58年金沢大学を卒業し当時の第一外科(岩 喬教授)に入局して以来一貫して心臓血管外科の道を歩んでまいりました。平成22年に慶應義塾大学心臓外科の関連病院に加えて頂き今日に至ります。



東京都済生会中央病院  
梶 政洋

この度、ご縁がございまして刀林会に入会させていただきます。国立がんセンターレジデント時代より浅村先生からの薫陶を受けてこまごま参りました。2005年から東京都済生会中央病院に勤務しております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 刀林会入会



国立病院機構  
埼玉病院  
林 一郎

国立埼玉病院心臓血管外科部長をさせて頂いておられます。林 一郎と申します。順天堂大学心臓外科、イタリア留学を経てさいたま市立病院に勤務、その後現職に就かせて頂きました。何卒ご指導の程、お願い申し上げます。



国立病院機構  
東京医療センター  
山田 敏之

この度刀林会に入会させていただきます。私は東京医療センターと慶應義塾大学大学院との連携大学院制度を利用した大学院生であり、臨床・研究ともに充実した日々を送らせていただいております。慶應の名に恥じぬよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく御願申し上げます。



済生会横浜市東部病院  
飯田 泰功

このたび、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入室させていただきます。80回生相当の飯田泰功と申します。世界の心臓血管外科治療のパラダイムシフトを牽引する当教室で、精いっぱい努力する所存です。教室の皆様方のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしく御願申し上げます。



国立病院機構  
東京医療センター  
内室 智也

1999年に東北大学を卒業後、東北・関東の3県1都の病院を経巡り、2015年6月に東京医療センター入職を契機に刀林会へ入会致しました。臨床・学術活動ともに精進を重ねたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



さいたま市立病院  
米谷 文雄

さいたま市立病院呼吸器外科の米谷文雄です。平成4年3月広島大学を卒業し、東海大学前期臨床研修医から同大学第一外科に入局しました。国立大蔵、国療晴風荘、国療東京、清水市立、小田原市立、大和市立等の病院に出向し、2011年4月から現職です。今後ともよろしく御願いたします。



東京都済生会中央病院  
大坪 諭

伝統ある刀林会に入会させて頂き誠に光栄です。外科専門医取得には心臓血管手術の修練が必須ですが、当院でこれまで多くの慶應大学外科の若い先生方と共に手術をする機会を得ました。たいへん楽しく仕事ができ、指導医としても勉強になっております。

私は、1989年金沢大学を卒業し、2008年より荻窪病院心臓血管外科に医長として勤務しております。これまで心臓外科に加え、血管外科・外傷外科を中心に診療してきました。今後ともよろしく御願申し上げます。



さいたま市立病院  
川合 恵

国立埼玉病院心臓血管外科部長をさせて頂いておられます。林 一郎と申します。順天堂大学心臓外科、イタリア留学を経てさいたま市立病院に勤務、その後現職に就かせて頂きました。何卒ご指導の程、お願い申し上げます。



医療法人財団  
荻窪病院  
藤井 奨





済生会横浜市東部病院

林 祥子

この度、伝統ある刀林会に入会させていただきました誠にありがとうございます。私は84回生相当の林祥子と申します。至らない点も多し、何卒よろしくお願い申し上げます。



足利赤十字病院

岡本 雅彦

皆様、こんにちは。私は、岡本雅彦と申します。この度、縁あって、刀林会の御仲間に加えて頂ける事となりました。現在、足利赤十字病院心臓血管外科におります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



国立病院機構  
東京医療センター

大迫 茂登彦

私は神戸生まれの神戸育ちで、私の母校関西医科大学に今村洋二先生が教授と



練馬総合病院

市原 明子

2011年より練馬総合病院外科で一般・消化器外科に従事しております。早稲田大学文学部卒業後、東海大学学士入学、幕内博康教授の外科学教室で指導を賜り、卒後17年目です。この度北川教授のご推薦を頂き刀林会会員に加えて頂き、心より感謝申し上げます。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

近況報告

79回生



東京医科大学  
消化器外科・  
移植外科学分野

千葉 斉一

一般消化器外科でのチーフレジデント終了後、永寿総合病院、MGH Cancer Center、HMS、川崎市立井田病院を経て、北川雄光教授、島津元秀前主任教授のご高配により、現在は東



慶應義塾大学医学部  
外科（一般・消化器）

鶴田 雅士

2013年3月にカナダはバンクーバーでの留学を終えて、北川教授のご高配により大学のほうに直接入室させていただいてから来春でもう3年になります。「石の上にも3年」とはよくいったもので、留学中も3年目が一番充実していましたが、現職においても少しずつ余裕が出てくるよ



藤田保健衛生大学  
上部消化管外科

須田 康一

2010年から藤田保健衛生大学上部消化管外科学に赴任し、2014年より



林診療所

林 俊行

2013年に世田谷区桜上水に開業しました（今回「刀林」に開業記を書かせていただきました。自



東京歯科大学  
市川総合病院

浅原 史卓

大学卒業後15年以上経過しましたが、現在は東京歯科大学市川総合病院外科にて、副院長兼外科部長の松井淳一教授のもと、先輩・後輩の先生方より日々刺激を受けながら、大腸肛門疾患を中心に研鑽を積んでおります。刀林会の先生方におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

准教授を拝命しました。宇山一朗教授ご指導のもと、進行胃癌に対する完全腹腔鏡下手術や食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下手術、ロボット支援手術など、最先端の低侵襲手術に従事しています。先日、「藤田保健衛生大学内視鏡外科手術テキスト」を執筆、編集、出版しました。このような素晴らしい機会を与えて下さった北川雄光教授並びに慶大医局の皆様へ深謝申し上げます。

Advertisement for Aloxi (Aloxi 0.75mg injection and infusion bag) featuring an elephant and a person sitting on a sofa. Text includes: 「効能・効果」, 「用法・用量」, 「禁忌を含む使用上の注意」, 「添付文書をご参照ください」. Product names: アロキシ 静注 0.75mg, アロキシ 点滴静注用バッグ 0.75mg. Manufacturer: 大鵬薬品工業株式会社.

Advertisement for Finibax (Finibax 0.25g/0.5g and Finibax 0.25g) featuring a hand holding a syringe. Text includes: カルバペネム系抗生物質製剤, 処方せん医薬品, 薬価基準取載. Product names: フィニボックス, FINIBAX. Manufacturer: シオノギ製薬.



慶應病院 外来 外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

土	金	木	水	火	月
				◎	◎
				北川雄光	篠田昌宏
				板野理宏	尾原秀明
				長谷川博俊	竹内裕也

小児外科

土	金	木	水	火	月
				◎	◎
				黒田達夫	下島直樹
				星野健樹	藤野明浩
				藤野明浩	山田洋平
				藤野明浩	山田洋平

心血管外科

土	金	木	水	火	月
				◎	◎
				吉武明弘	岡本真弘
				饗庭了真	志水秀彦
				工藤彦彦	加島一郎

呼吸器外科

土	金	木	水	火	月
				◎	◎
				大塚尚生	浅村尚生
				加勢田馨	加勢田馨
				神山育男	浅村尚生
				浅村尚生	浅村尚生

脳神経外科

土	金	木	水	火	月
				◎	◎
				大平貴之	佐々木光
				三輪史点	高橋里史
				高橋里史	戸田正博
				吉田一成	戸田正博

◎印 診療部長  
○印 診療副部長

特殊外来 (午前)

月	火	水	木	金	土
川久保博文	高橋常浩	坂田道生	松原健太郎	篠田昌宏	尾原秀明
尾原秀明	日比泰造	尾原秀明	長谷川博俊	高橋麻衣子	水 乳腺

木	金	土	日	月	火
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明

火	水	木	金	土	日
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明

月	火	水	木	金	土
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明

火	水	木	金	土	日
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明
尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明	尾原秀明

呼吸器  
水 乳腺  
心臓  
呼吸器

免疫療法 (第3)

戸田正博

佐々木光

星野健

高橋麻衣子

尾原秀明

松原健太郎

神山育男

山田洋平

小児移植

脳・定位放射線 (第1)

小児移植

鶴田雅士

岡林剛史

大平貴之

堀口崇

脳血管障害

堀口崇

脳神経 (第1,3,5)

秋山武紀

訃報

●山崎 寛一郎君 (35回)  
平成 27 年 3 月 5 日

●上村 等君 (23回)  
平成 27 年 5 月 14 日

●田村 清隆君 (62回)  
平成 27 年 6 月 9 日

●上村 孝臣君 (47回)  
平成 27 年 6 月 15 日

●戸谷 重雄君 (36回)  
平成 27 年 7 月 29 日

●角本 陽一郎君 (41回)  
平成 27 年 11 月 11 日

●森末 久雄君 (33回相当)  
平成 27 年 11 月 19 日

●田中 勸君 (38回)  
平成 27 年 12 月 6 日

開業についてのお知らせ

開業の際は、同窓会へご連絡をお願いいたします。  
記念に刀林会より盾を進呈いたします。  
よろしくお祈りいたします。

連絡先

<刀林会 事務局>  
〒160-8582 新宿区信濃町35  
慶應義塾大学医学部外科同窓会事務局  
TEL : 03-5363-3800  
FAX : 03-3359-9130  
tourin-h@keio.jp

刀林会事務局よりお知らせ

メールアドレスの登録をお願いいたします。  
変更になった場合もお知らせください。

tourin-h@keio.jp  
(お名前、回生をお願いします)

開業

●安西 兼丈君 (77回相当)  
湘南藤沢心臓血管クリニック  
平成 27 年 12 月 14 日

編集後記

平成二十七年も残り僅か。卒業大凡二十年、キャリア中間到達を意識する。究めんとする小児の外科世界はなお奥知れず、ライフワークの疾患研究は半歩の如し。刀林に掲載され

A・F



編集委員

委員長	小澤 壯治
委員	佐藤 周三
	磯部 陽
	小澤 壯治
	川村 雅文
	古村 清和
	藤野 明浩
	大塚 崇浩
	下島 直樹
	秋山 武紀
	吉田 明弘
	鶴田 雅士

まだないくすりを  
創るしごと。

明日は変えられる。



www.astellas.com/jp/

中外製薬 CHUGAI  
ロシュグループ

抗悪性腫瘍剤  
劇薬、処方箋医薬品 (注1)

**ゼロダ錠 300**  
Xeloda  
カベスタピン錠  
ゼロダの®はF.ホフマン・ラ・ロシュ社 (スイス) 登録商標

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF (注2) ヒト化モノクローナル抗体  
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品 (注1)

**アバステン点滴静注用**  
100mg/4mL  
400mg/16mL  
ベバシズマブ (遺伝子組換え) 注

AVASTIN®  
bevacizumab

注1) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること  
注2) VEGF : Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

【資料請求先】  
製造販売元 中外製薬株式会社  
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1  
ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。  
http://www.chugai-pharm.co.jp

2015年5月作成